

～外出先では周囲のパニックにまどわされない～

ビル街

建物の倒壊、ガラス・看板などの落下、自動販売機の転倒に注意します。かばんで頭を守って広場などへ避難します。



住宅街

ブロック塀・門柱の転倒、ガラス・瓦の落下、切れた電線に注意します。



地下街

構造的に丈夫で火災に対する設備も充実しています。ゆれがおさまってからおちついて誘導標識や誘導員の指示で避難します。



車の運転中

ハンドルをしっかりと握り、道路の左に寄せて止め、ラジオで情報を得ます。車を置いて避難するときは窓を閉め、ドアはロックせずにキーをさしたままにします。できれば車検証などを持っていきます。



エレベーター

全ての階のボタンを押して、止まった階で降ります。閉じ込められたら呼び出しボタンを押し続けます。



デパート・スーパー

買い物かごやかばんで頭を守ります。商品や棚の下敷きにならないように安全な場所でゆれがおさまるのを待ち、店員の指示で避難します。



電車・地下鉄・バス

前の座席や手すりにしっかりつかまります。非常口から脱出するときは係員の指示に従います。

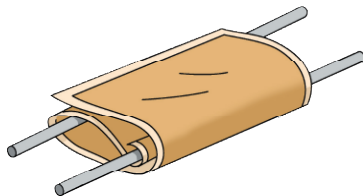


～災害時要援護者へ配慮しましょう～

※災害時要援護者：高齢者・乳幼児・病気や障害のある人など、自力で災害に対応することが困難な人

●高齢者・傷病者

応急の担架を使用するか、おぶって避難します。



●耳の不自由な人

身ぶりや筆談で、あるいは大きく口を動かして話します。



●目の不自由な人

状況を知らせ、避難する場合は、つえを持つ手の反対の手でひじの上あたりをつかんでもらい、ゆっくり誘導します。階段や障害物は説明しながら歩きます。



●外国人

身ぶり手ぶりで話しかけ、孤立させないようにします。

